



平成 22 年 7 月 28 日

各 位

会 社 名 JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社  
 代表者名 代表取締役会長 兼 社長 兼 CEO 河原 春郎  
 (コード番号 6632 東証第一部)  
 問合せ先 取締役 兼 CFO 不破 久温  
 (TEL 045-444-5232)

## 平成 23 年 3 月期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、当第 1 四半期の損益の状況および当第 2 四半期以降の損益の見通しをふまえ、平成 22 年 5 月 14 日に発表いたしました平成 23 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間および通期の連結業績予想を修正いたします。

記

### 1. 業績予想数値の修正

#### (1) 第 2 四半期連結累計期間の業績予想数値の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 22 年 5 月 14 日発表)	180,000	△2,500	△6,500	△14,500	円 銭 △15 00
今回修正予想 (B)	180,000	2,500	△500	△7,000	円 銭 △7 24
増減額 (B-A)	0	+5,000	+6,000	+7,500	—
増減率 (%)	0.0	—	—	—	—
(参考) 前年同期実績	203,324	△7,809	△10,955	△16,849	円 銭 △17 43

(注) 本年 5 月 14 日に発表しました 1 株当たり四半期純利益は、本年 8 月 1 日付で予定している株式併合を考慮した期中平均株式数を用いて算出しておりましたが、前年同期実績との比較ができるよう、上記の前回発表予想 (A) および今回修正予想 (B) の 1 株当たり四半期純利益は、期初から株式併合までの期間の平均株式数を用いて算出した数値に変更いたしました。

#### (2) 通期の業績予想数値の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 22 年 5 月 14 日発表)	380,000	4,000	△3,500	△13,000	円 銭 △13 45
今回修正予想 (B)	380,000	8,000	1,500	△13,000	円 銭 △13 45
増減額 (B-A)	0	+4,000	+5,000	0	—
増減率 (%)	0.0	100.0	—	—	—
(参考) 前期実績	398,663	△6,453	△14,752	△27,795	円 銭 △28 75

(注) 本年 5 月 14 日に発表しました 1 株当たり当期純利益は、本年 8 月 1 日付で予定している株式併合を考慮した期中平均株式数を用いて算出しておりましたが、前期実績との比較ができるよう、上記の前回発表予想 (A) および今回修正予想 (B) の 1 株当たり当期純利益は、期初から株式併合までの期間の平均株式数を用いて算出した数値に変更いたしました。

## 2. 修正の理由

当社グループは、本年5月14日に公表しました平成23年3月期業績予想において、前期に実施した主にホーム&モバイルエレクトロニクス事業、ビジネス・ソリューション分野に対する事業構造改革アクションプランの効果を発現させながら、カーエレクトロニクス事業、業務用無線機器分野、エンタテインメント事業の損益改善をはかることにより、第2四半期連結累計期間では25億円の営業損失（前年同期は約78億円の営業損失）、通期では40億円の営業黒字（前期は約65億円の営業損失）を予想しておりました。

この期初の予想に対して、当第1四半期は、カーエレクトロニクス事業の収益拡大とその他の事業の損益改善が想定を大きく上回ったことに加え、営業外収支の改善や法人税等調整額の減少などによって、営業利益、経常利益、四半期純利益のそれぞれが想定を大きく上回りました。

当社は、こうした当第1四半期の損益の状況をふまえ、当第2四半期以降の円高の影響や損益の見通しも考慮して、本年5月14日に公表した当第2四半期連結累計期間および通期の業績予想を修正いたします。

当第2四半期以降の想定レートにつきましては、米ドル：90円、ユーロ：110円（従来は米ドル：90円、ユーロ：125円）に変更いたします。

### (1) 第2四半期連結累計期間の業績予想数値の修正

当第2四半期連結累計期間については、上記の当第1四半期の損益の状況と、当第2四半期のユーロに対する円高の影響を織り込むこととし、営業利益の予想は本年5月14日に公表しました25億円の損失を25億円の黒字に、経常利益の予想は65億円の損失を5億円の損失に、四半期純利益の予想は145億円の損失を70億円の損失に修正いたします。

なお、当第1四半期には、期初に想定していなかった過年度決算の訂正に関連した課徴金に係る特別損失（約15億円）などが発生いたしました。ビクター本社の売却にともなう固定資産売却損（約18億円）が本年5月28日付「固定資産の譲渡に関するお知らせ」に記載しました想定額（約22億円）を下回ったことなどから、当第2四半期連結累計期間の特別損失の合計額は期初の予想（約67億円）に対して約10億円の増加にとどめております。

### (2) 通期の業績予想数値の修正

当下期については、本年5月28日付「企業基盤の再構築に向けたアクションプランおよび中期経営計画の策定に関するお知らせ」において当第2四半期決算発表までに公表するとしておりました企業基盤の再構築に向けたアクションプランの諸施策にともなう効果（営業利益の改善）と影響（特別損失の発生）に加え、当下期のユーロに対する円高の影響を織り込むことといたします。

以上により、通期の営業利益の予想は本年5月14日に公表しました40億円を80億円に、経常利益の予想は35億円の損失を15億円の黒字に修正し、当期純利益の予想は130億円の損失を据え置くことといたします。

以 上